

13:05~13:30 オープニング「三重県のこれまで」

トーカー 出丸 朝代 (元三重県生活部NPO室長/
NPO法人みえNPOセンター 代表理事)
インタビュアー 山本 康史 (NPO法施行10周年・みえパートナーシップ宣言
10周年事業 実行委員長/ハローボランティア・ネ
ットワークみえ 代表)

■プロフィール

◇ 出丸 朝代 (いでまる あさよ)

全国に先駆けて1997年に設置された、三重県NPO室の初代室長。就任以降7年間にわたり、NPO政策先進県としての評価を築いた。2008年11月から、NPO法人みえNPOセンター代表理事。この他、現在、NPO法人市民フォーラム21・NPOセンター理事、NPO法人地域の未来・志援センター理事。

◇ 山本 康史 (やまもと やすし)

大阪府生まれ。1995年、大学時代に阪神・淡路大震災のボランティア活動に参加し、防災の活動に取り組むようになると共に、防災の活動で出会った行政職員の誘いでイベントボランティアの支援に取り組み始める。以後、本業である機械部品輸入・製造業のかたわらハローボランティア・ネットワークみえ(イベント支援)、NPO法人みえ防災市民会議(防災)の代表を務めるなどの市民活動を展開している。

[山本] これから 30 分は、三重県のこれまでということテーマに、10 年をふりかえりたいと思っています。この 10 年をすべてを体験していらっしやった出丸さんに自己紹介をお願いします。

[出丸] 私は 1997 年に、三重県の NPO 推進監という肩書きで、三重県の NPO 施策を担当することになりました。最初の 97 年は、森西さんと私の二人きりで三重県の NPO 施策を進めるということになりました。当時は、NPO が世の中に知られている時代ではありませんでした。私も、新聞でたまに見て、NPO というのがこのごろはあるんだなというくらいの認識で担当になりました。NPO 担当ができたことは、新聞で報道され、毎日、活動されている方が尋ねて来てくれて、いろんな話しをしてくれるという時が、1 年続きました。翌年が NPO 法が出来た年です。そ



ういう時に私は NPO 担当をさせていただいたわけです。2004 年度をもって同じ職を定年退職し、先日、みえ NPO センターという中間支援組織を立ち上げたところです。

[山本] 資料の年表をご覧くださいながら、振り返ってみたいと思います。

1997 年に動きが始まっていますが、最初に、NPO にどういうイメージを持っていたらっしやいましたか。

[出丸] どうもボランティアとは違うらしい。世の中にうまれたしくみのひとつであると新聞で見て思っていました。新しいしくみが世の中に生まれつつあるという感じでした。

[山本] 98 年に市民活動センター運営委員会というものが出て、それ以降色んな事業がありますが、この 10 年間で一番、印象に残っているのは何でしょう？

[出丸] センター開設準備会とみえ NPO 研究会のふたつです。

センター開設準備会は、市民活動センターを作るにあたって、どういうセンターを作ればいいのか、そこを利用したいと思っている人に、どういうものが必要か聞いてみようとして立ち上げました。

みえ NPO 研究会というのは、NPO 法が施行されるにあたって県は施行条例をつくらなければならなくなりました。各県では簡単に手続き条例を作っていました、三重県ではみんなで一緒に NPO とは何かを学びながら条例を作るということをしようじゃないかと始まりました。

[山本] 職員は二人しかいなかったわけですよね？

[出丸] 1997 年の活動を通して、二人だけでは県内全域をフォローできないことがわかってきました。三重県内で活動されている方々と向き合うためにはもっとたくさんの職員がいるということで、1998 年には各県民局に NPO 担当が配置され、NPO 室という組織ができて 5 人の職員が配置されました。そうした中で動き出したということです。

[山本] 職員が配置されるだけではできない

と思いますが、準備会に参加していただく人はどうやって探したのですか。

[出丸] 1年間お話しをさせていただいたことで、誰がどこでどのような活動しているのかある程度わかるようになっていました。その延長線上で、センター開設準備会を作るので意見を出していただきたい、是非お集まりいただきたい、とお願いして自由に来てもらったのが実行委員です。

[山本] すでに地域で活動されていた方々ですね。

[出丸] 声をかけて集まってくださった方が委員です。

[山本] 何人くらいですか。

[出丸] 20人から30人です。

[山本] 今日の参加者の中にもその当時の方いらっしゃいますか。

[出丸] いらっしゃいますね。

[山本] 97年に仲間を見つけて、98年、99年に開設準備会、研究会をつくってこられたと。

[出丸] 研究会の場合は委員として委嘱させていただきました。当時、県庁内で、条例をみんなで検討する場ということを知っている人は少なかったと思います。実は、こういうことをするんですと、きちり説明したら決裁をもらえないと思い、条例を検討するだけ書いて書類をまわしたらほんと決裁が降りてきました。委員には、県議会各派からも

来ていただきました。これは議会对策で条例を認めていただきたかったからです。また、市民活動団体の各分野の方、行政、企業の方にも入ってもらうというように目配りはしてきました。

[山本] 当時有名な知事がいらっしやったが、知事はどういう人でしたか？

[出丸] どういう人といえば皆さんよくご存知ですが、NPO施策を推進するに当たって100%の応援をしてくれました。しやすいようにするには、私はどうすればいいかと言ってくれる人で、それを進めるのに何をどうすればよいか考えてくれました。そういう点ではとても恵まれていたと思っています。

[山本] 10年振り返ってのトピックはありますか。



[出丸] やはりセンター準備会とNPO研究会が、何事においても基礎であり、スタートになっています。意見をまとめるやり方においても、市民の方々に絶大な力を貰えたということについても、これがスタートになったと思っています。その次に時間を経て考えるなら、2001年に市民活動センターをこちらに移転したことです。活動も一段と楽なところできるようになり、たくさんの方に、また、違った方にも参加してもらえるように

なりました。

[山本] 基本は10年前の立ち上げと変わらぬ気持ちでいるということですね。では、10年前と変わったと思うことは何ですか。

[出丸] NPO室の果たす役割が大きく変わったと思うんです。設置された時、優秀な人材に恵まれて、県民局の担当者どこに出しても恥ずかしくない人たちで、成果に拍車をかけたと思っています。



今は、県内で活動している人が、NPO室に熱い視線を注がなくなっているんじゃないかと思います。それは、民間の側に十分に、気持ちも情報も社会の資源も取れるような時代になってきたのだと感じます。

[山本] NPOが自立できるようになってきている。

[出丸] そう言われるとそうですねとはいにくいですが、取る努力をすればいくらかでも取れるようになってきた。行政の役割は、前ほどエネルギーを注がなくてもNPOの力を受け止められるようになってきているのではないのでしょうか。

[山本] NPOと行政の関係というのは、今日、まさに第2分科会でさらに議論を深めていただきたいと思います。

[山本] この10年間で三重県のNPOの推

移というものが色んな数値が出ています。団体数であったり収入規模を見てどうですか。

[出丸] 私は感無量です。平成11年を見ると2億2千万の収入規模は、9年経って平成18年には約50億に達しているということです。NPO施策を始めたころに、よくアメリカ経済の中において、NPOが稼ぎ出すお金は何%で、雇用は何%あると聞かされたものですが、三重県でも50億をNPOが稼ぎ出す時代になっているという数字です。全体のどれくらいの割合を占めるのかわかりませんが、この数字だけ見ても感慨深いものがあります。数字だけで感わされてはいけないので、中身は吟味しないといけないと思っていますが、団体数においては500に近づいています。NPO法人の数は意味がないと言いながら、かつてNPO施策を積極的に推進したこともあって、人口10万人あたりのNPO法人の数は、上位5位以内にずっと入っていました。それ以後、他の県が追いついてきて、今はこういう状態ですが、私たちの身の回りにたくさんのNPOがあるということは感慨深いものがあります。

[山本] 10年を振り返ってお話を伺いました。

[山本] 最後にこれからのことについて、コメントをいただきたいと思います。これからの11年目、12年目NPOはどんな視点をもってほしいと思って



いらっしゃいますか。出丸さんの個人の思いをご紹介しますだけだと思います。

[出丸] みえNPOセンターを立ち上げましたが、なぜ立ち上げたかというところ、3ページのグラフを見ていただくと、三重県内の各市町のほとんどにNPO法人があります。法人格を持っていない団体はもっとあると思います。でもそれは点でしかないんですね。それぞれの地域で、それぞれの人が、それぞれの分野で活動していますが、それでいいのかという気持ちが、日夜、強くなっています。それを点とするなら、NPOの活動を面として捉えて、

分野を超えて面としての力を世の中に知らしめることができないか



という気持ちです。三重県において足りないのは、NPOの力を一つにまとめるところがないということだと、NPO室を離れて強く感じておりました。行政ができることには限りがありますが、民間の人たちが集まって自分たちの声をあげていこう、社会に力として出していこう、行政と渡り合うとき、企業の人と手を組むとき、そういう時のために力になりたいと思い、みえNPOセンターを立ち上げ、メンバーに加わっています。三重県のNPOはもう少し面としての力をたためるときではないかと思っています。

[山本] これまでの10年間をみなさんと一緒に振り返るといところで、出丸さんにお話しを伺いました。ありがとうございました。